



KUMAMOTO

GREEN Rotary-Club

The Weekly Bulletin

Kumamoto green rotary-club district 2720 rotary international

2018~
2019年度
テーマ

国際ロータリー 「インスピレーションになろう」 R.I.会長 バリー・ラシン

地区方針 「ロータリーを信奉し、奉仕に行動しよう」

R.I. 2720 地区 ガバナー 高山泰四郎

熊本グリーンRC 「手をつなごう、手をのばそう」

熊本グリーンRC会長 本田悟士



インスピレーションになろう

■例会日：毎週月曜日 18:30~19:30
■例会場：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル
TEL096-326-3311

■創立：平成元年2月22日 ■会長：本田悟士 ■幹事：福島和見 ■会報担当：栗山義則
■事務所：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル内
TEL096-354-4521 FAX096-354-4053 E-mail:kgrc@serc2720.org

国際ロータリー
第2720地区

熊本グリーンロータリークラブ週報

【2018年7月2日】

08
第1307回

2018-2019年度 第1回

【例会】

1. 開会・点鐘 18:30
2. 食事と交歓

国歌 「君が代」

ロータリーソング 「友と語ろう」

来訪者紹介 (本田 悟士 会長)

★米山奨学生 シャルマ・ゴパル君

会長スピーチ (本田 悟士 会長)

こんばんは。初めての会長の時間です。身についたロータリー情報に絡めたお話ができるようになればと思うのですが、一朝一夕には難しいもので、今日は、自分の疑問から調べて知ったばかりの話から。

「ロータリー年度」についてです。なぜ、7月という中途半端な時期から新年度が始まるのか。

調べてみるとロータリーのサイトの中、歴史資料室に答えがありました。

<以下引用>

歴史に残る1ページ：「ロータリー年度」の由来

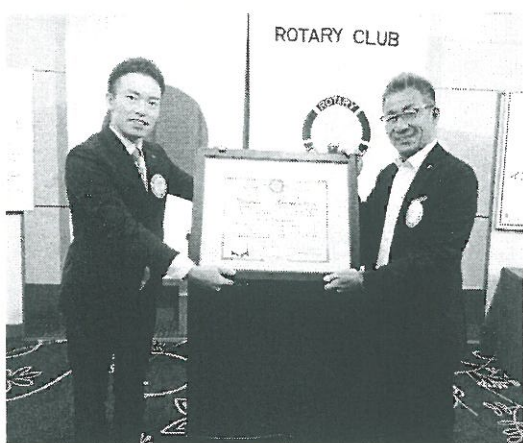
ロータリー年度は、なぜ7月1日に始まるのかと、疑問に感じたことはありませんか。これは、毎年開催される国際大会に、その由縁があります。

ロータリーの最初の会計年度は、第1回大会が終了した翌日、1910年8月18日に始まりました。翌年度も同様に、国際大会の日程に合わせ、8月21日開始となっています。

さらに翌年の1912年8月、理事会が当時の国際ロータリー・クラブ連合会の会計監査を依頼した際、クラブ幹事と会計が十分な時間をもって、大会に向けた財務報告を準備し、クラブ代議員の数を決定できるよう、会計年度の最終日は6月30日にするのがよいとの提案を会計士から受けました。

*** 認証状の伝達 ***

山下佳介直前副会長から本田悟士会長へ



卓話予定

- 7/9 6常任委員長就任挨拶
- 7/16 祝日(海の日)の為、例会取り止め
- 7/23 未定
- 7/30 クラブ・フォーラム「創立30周年事業クラブ・フォーラム」

[熊本グリーンRC ホームページアドレス] <http://www.kg-rc.com/>

執行委員会はこれに同意し、1913年4月の会合で、6月30日を会計年度最終日と決めました。この決定に伴い、クラブ会員数の報告と支払いに関する期日のほか、「ザ・ロータリアン」誌の巻番号システム（1914年7月の第5巻より開始）もまた変更されました。

ロータリーはその後、1917年まで、7月または8月に年次大会を開催していましたが、1916年大会（米国、シンシナティ）での代議員が、夏場の暑さを考慮し、大会を6月に開催する決議案を採択しました。これにより、次の大会となるアトランタ大会は6月17～21日に開催されました。

「ロータリー年度」という表現は、ロータリーの運営年度を示す用語として、1913年から使用されているようです。同年7月の「ザ・ロータリアン」誌には、「終わりに近づきつつある本ロータリー年度は、クラブが容易に集結できるよう、充実したクラブ合同会合が行われた一年でした」と記されています。

<引用終わり>

なるほど、ロータリー年度については理解しました。

しかし、そこで次に気になってくるのが、身近な年度、4月1日開始の年度の由来です。

これは、明治19年（1886年）に始まった日本の会計年度に端を発するもののようです。

当時の日本の主産業、稲作を前提に、秋の収穫・現金化・納税を経ての予算編成となると

1月では間に合わず4月開始が都合良かったとのこと。イギリスの会計年度にならったとの話もあります（何でイギリスは4月からだったのかも気になるところですが、グレゴリウス暦への改暦や春分年初の伝統も絡んで長いお話となるので、皆さまそれぞれにお調べください。）。

また、学校などの学年の切り替わりを目的とした学校年度も、明治末期ごろからの学校年度の統一指導もあって、（国、県が設立・運営しているものは勿論、そうでなくとも補助金等を受けることもあって）会計年度にあわせて4月入学へ変えられていき、昭和に至ってほぼ全ての学校で統一をみたそうです。

（ちなみに、江戸時代の寺子屋や明治時代初期の学校では入学時期、進学時期は固定

されておらず、大学が作られた際に、外国に倣って「一斉入学・一斉進級」が取り入れられたとのこと。当初は9月開始の年度だったようです。）

関連して、年度開始は4月1日なのに、同じ学年の一番早い生まれは4月2日?なのかということについてもご説明したいところですが・・・時間の関係上割愛します。

せっかく法律家らしい話になるところで、残念なので、週報には、文科省の説明を引用しておきますね。

<以下引用>

4月1日生まれの児童生徒の学年について

Q 4月1日生まれの児童生徒の学年についてどうなるのでしょうか。

A

学校教育法（以下「学教法」といいます。）第17条第1項には「保護者は、子の満6歳に達した日の翌日以後における最初の学年の初めから、…これを小学校又は特別支援学校の小学部に就学させる義務を負う。」とあり、中学生については、同条第2項において「保護者は、子が小学校又は特別支援学校の小学部の課程を修了した日の翌日以後における最初の学年の初めから、…これを中学校、中等教育学校の前期課程又は特別支援学校の中学部に就学させる義務を負う。」とあります。

一方、学教法施行規則第59条において、「小学校の学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。」と規定されています（中学校については同第79条において準用。）。

それでは、満6歳に達する日とはいつなのでしょう。年齢の計算については、年齢計算ニ関スル法律と民法第143条によりその考え方が示されており、それによれば、人は誕生日の前日が終了する時（午後12時）に年を一つとる（満年齢に達する）、とされています。これを4月1日生まれの子どもに当てはめると、誕生日の前日である3月31日の終了時（午後12時）に満6歳になることとなります。

<引用終わり>

以上のとおり、明治時代に会計年度が始まったことから、現在では日本では基本的に4月が新年度、年度初めとなっています。昭和に入って学校年度もこれに統一されたこともあり、戦後、新卒の一斉就職の一般化もあいまって、民間企業もほぼすべてが4月からを新年度としています。

ちなみに、7月から始まる「麦年度」、9月から始まる「いも年度」、10月から始まる「大豆年度」など年度もさまざまあることを知り、なかなか面白かったです。

私自身も、また、会員の皆様も豊かになる会長の時間を、このロータリー年度1年、続けられればと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

□ ●山下 佳介 君「本田会長、福島幹事就任おめでとうございます。フレッシュなコンビに期待していま
□ す。」

□ ●十時義七郎 君、長野 義文 君、荒木 一之 君、田中 純司 君「今日から新年度になったの最初の例会で
□ す。新会長、幹事、役員の皆様、1年間よろしくお願
□ います。スマイル担当としてもよろしくです。」

3. 例会プログラム

「会長、幹事、S. A. A.、会計就任挨拶」

- ①本田 悟士 会長
- ②山下 佳介 会長エレクト
- ③荒木 一之 副会長
- ④福島 和見 幹事
- ⑤河野 景治 会計



◆本田悟士会長

ついに新年度が始まりました。これから1年間、当クラブの会長を務めさせていただきます。

ロータリー暦10年でこのような大役をたまたわり大変恐縮しておりますが、務める以上は、自らにもまた会員の皆様にも、そしてこのクラブにとっても、得るもののあるよい1年にしたいと考えております。

30周年記念事業、記念式典という今年度ならではの行事も予定されておりますが、そうでなくともロータリークラブはその構成員各自の職業奉仕、通常のクラブ活動をもって、日常的にその活動を充実させて、不断に、社会的役割を果たし続けているものと理解しております。

1回1回の例会を大切に、毎日、毎週がいつそ豊かなものになるよう、私も努めてまいります。

仕事から、依頼者・相談者の意向を軸に据えて、事実・資料や情報の整理と目的達成のための手段検討に取り組むことには慣れているのですが、会長を務めることとなり、どうしたいか、何をしたいかと自らにオープンに問いかけると、その空虚さや創造性のなさに気付かされました。

憂い、かこつても仕方ありませんし、正にこの一年をよい機会とし、自身とクラブの発展・成長につなげたいと思います。

河野前会長、河島実行委員長をはじめ、各委員長、理事役員、つまるところ会員の皆様から細やかかつ手厚いフォローを受けながら、ようやく始まった新年度。

「手をつなごう、手をのばそう」のクラブテーマが形となり、結果を残して、笑顔のうちに1年後締めくくられるよう、私自身頭を一生懸命使い、汗を流してまいります。

ご指導ご支援のほどどうぞ宜しくお願い致します。

◆山下佳介会長エレクト

会長エレクトとしての実務は殆どありませんが過去の会長と本田会長の1年間を参考に次年度スムーズに引き継げるようにじっくりと準備していきたいと思っております。

◆荒木一之副会長

だんだん重い責務がやって来る事をひしひしと感じます。

副会長の役割は未だ把握していませんが本田会長に従いついていくことで覚えていこうと思っております。なにぶん至らない点も多いかと思っておりますがよろしくお願いいたします。

◆福島和見幹事

熊本グリーンRCが30周年を迎える、本田会長年度に幹事をさせていただくことに、重責とやりがいの両方を感じています。今年度のクラブ方針「手をつなごう。手をのばそう」この言葉を聞いた時、心が温かくなった感動を忘れることなく、具現化できるようにできることをできる分だけ自分らしく実行していきたいと思っております。また、幹事をさせていただくことで体外活動も増えることから、女性ロータリアンとしてのメッセージも発信して行けたらと思っております。1年間宜しくお願いいたします。

◆河野景治会計（当日ご欠席の為、福島幹事代読）

今年度も、前年度を継承し引続き、CLPに順じたクラブ予算作成補助と、承認された予算を管理してまいります。当クラブでは先輩たちの内部留保のおかげで事業活動の資金はある程度、確保してありますが、今年度は創立30周年にあたり、その記念事業での支出もござい
ます。十分な計画の下、活発に事業支出が行われることを期待します。また、前年度も会員皆様の協力のもと、期間内会費等の納入100%を達成することができました。誠にありがとうございました。

然しながら、クラブ会員数の減少に伴い、クラブ運営の収支そのものは些か窮屈になってきております。もちろん、経済的なことがクラブの活動のすべてを左右するものでもありませんが、クラブの存続の重要なファクターの一つでもございます。会計の方からも、クラブ会員が増えることをお願いする次第でございます。会費納入と有意義な事業支出も含めて、この一年、どうぞよろしくお願い申し上げます。